

新潟理窓

第19号

発行所  
県支部事務局

新士文部部長御挨拶

新潟支部長  
田村 仁



38年や昭和56年の豪雪を凌ぐものがあります。中越地震からの復興もままならぬ中での豪雪被害に心からお見舞いを申し上げます。また、あらためて穏やかな一年を祈念いたします。

さて、平成17年度の新潟支部総会は、中越支部の役員並びに会員の方々の御協力により、義務や企業関係の方々にも出席していただくことができました。また、講師として理窓会本部より常任幹事の山田義幸様からお越しいただき、母校の改革や活躍の現状をつぶさに教えていただくことができ、成功裡に終了することができました。あらためて関係各位に御礼を申し上げます。

私は、8月の支部総会で、新潟県支部長をお受けすることとなりました。立巻高等学校の田村仁と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。新しく

選ばれた事務局や役員の皆様と協力し、会員の一層の親睦を図ると共に、同窓の輪が小・中学校や企業にも広がっていくよう、努める所存です。

さて、一昨年、本県は、未曾有の自然災害に見舞われ、その中において、あらためて“人の絆”というものの大切さを教えられました。戦後復興を画する昭和30年代、「理学の普及と同窓会員相互の親睦」を願い、新潟支部を創設された先輩諸氏の想いもそこに通ずるものと考えております。

ところで、昨春より、理窓会新潟支部のホームページが開設されました。支部の活動歴や支部報「新潟理窓」も検索でき、美しい映像も楽しめるなど、会員相互の情報交換や本部との連携にとつて画期的なものと思われま。作成・管理者の室岡氏（現副支部長）には、この場を借りて心より御礼を申し上げます。

母校は、明治14年の創立以来、科学・技術を通して日本の立国と国際貢献の歩みを重ね、来年は百二十五周年の佳節を迎えようとしております。私たちは東京理科大学で学んだことを誇りに思い、その縁を大切にして、母校の一層の発展を願いながら、年代や職種を超えて親睦を深めていきたいと思います。御支援と御協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

◇新潟支部総会◇

平成17年8月27日（土）理窓会新潟支部総会が中越地区のお骨折りによりパストラル長岡で開催されました。総会での議事の内容につきましては、御述の通り承認されましたことを報告



いたしました。

今回は理窓会本部より常任幹事の山田義幸先生にお出でいただき、「東京理科大学の現状について」と題して御講演を賜りました。先生には二部の会まで御出席いただき、心より感謝申し上げます。

来年度は上越地区の当番となつておりますが、何卒よろしく願ひいたします。

◇役員改選◇

支部長 田村 仁

副支部長 上野 茂男  
新保 隆

村山 宥一  
木南 誠

室岡 政幸  
森 久

岩根 卓司

地区幹事 平成17年度版名簿に記載

県幹事 平成17年度版名簿に記載

顧問 平成17年度版名簿に記載  
（今年度、次の方に新規委嘱）  
歌楽 隆伸

◇平成16年度事業報告◇

・支部役員会開催

7月11日 新潟会館

- ・支部総会開催  
8月22日 新潟会館
- ・会員名簿発行(8月版)  
8月22日 A4 24頁40部
- ・研修会開催  
10月2日 新潟会館
- ・会報「新潟理窓」発行  
10月25日 B5 4頁600部
- ・会員名簿発行(12月版)  
12月27日 A4 24頁100部

◇平成17年度事業計画◇

- ・支部役員会開催  
7月9日 新潟会館
- ・支部総会開催  
8月27日 パストラル長岡
- ・会員名簿発行(8月版)  
8月27日 A4 24頁50部
- ・研修会開催  
10月2日 新潟会館
- ・会報「新潟理窓」発行  
1月31日 B5 4頁600部
- ・会員名簿発行(2月版)  
2月下旬 A4 24頁100部

◇平成16年度会計収支決算◇

○収入の部

繰越金	120,902円
会費	109,260円
雑収入	15,949円
合計	246,111円

○支出の部

会議費	6,900円
名簿・会報	7,220円
送料	73,600円
事務用品	7,909円
資料代	6,000円
本部送金	9,000円
合計	110,629円

◇平成17年度会計予算◇

○収入の部

繰越金	135,482円
会費	100,000円
臨時徴収	10,000円
雑収入	14,518円
合計	260,000円

○支出の部

支部総会補助	30,000円
会議費	22,000円
名簿・会報	20,000円
送料	72,600円
事務用品	10,000円
資料代	6,000円
予備費	100,000円
合計	260,000円



御 挨拶

副支部長  
木南 誠



六月の全  
国特殊学校  
長研究大会  
の折三十数

年ぶりに飯田橋で下車、神楽坂界限を歩いて市ヶ谷の宿まで帰った。

母校の1号館を始め飯田橋界限は、ビルが立ち並び、私の学生当時とは街の雰囲気は大分異なっていた。ところがよく利用した「おきな」はしっかりと営業をしており、懐かしくなりそこで夕食をとった。昔と同じ味だった。

また、今も甘味の名店として営業している「紀の膳」や、3号館から1号館に続くあのL字型の公道は、充分に当時の雰囲気を感じさせていた。ただ、昔よく利用した「みどり」や「人形の家」や「佳作座」はすでになかった。

私は理工学部の二期生で生活の場は野田や柏にあった。しかし、神楽坂にあった能楽研究部の練習日によく出かけていった。理科系の大学であるにも関わらず、能楽研究部には観世・宝生・金春の三会が、一緒に活動しており三十人程の部員がいて、活況を呈していた。各会の公演会(関東観世流学生連盟や全国宝生流学生連盟など)でも高い評価を得ていた。もともと、謡の

センスのなかった私はほとんど戦力にならなかったが、大学として研究教育活動だけでなく、随所に優れたものを持つている理科大の存在を肌で感じる事ができた。

一昨年の十月に県立新潟聾学校長を命じられ、初任以来の特殊教育の世界にもどった。特殊教育も特別支援教育へ大きく変わろうとしている。一言で言えば、障害種別の学校での教育から一人一人のニーズに応じた教育へ、複数の障害に対応する地域の教育へと変わるうとしている。しかし、聾教育はある程度の集団が必要であり、高度な専門性が必要である。また、近年聾学校も大学等への進学希望者が増え、学力の向上と希望する進路の達成が大きな課題となっている。ノーマライゼーションがうたわれ、統合教育が大きな流れとなっている今日、より魅力的な聾学校づくりが急務である。そんな中で田村支部長からも情報保障の面で大いに力を貸していただいている。

思い起こせば初任の高田盲学校、初めて教頭を勤めさせていただいた高田北城高等学校、考えもしなかった高校テニスの世界などで多くの同窓の方々から教えられ助けられてきた。心から感謝申し上げる次第である。このたび新潟県副支部長という大役を仰せいただくことになった。支部長のご指導をいただきながら少しでも恩返しをするこ

とができればと思っている。  
よろしくお願い申し上げます。

### 御挨拶(同窓の絆)

副支部長  
室岡 政幸



理窓会新  
潟支部の総  
会や会合に  
関わり始め、  
30 年が経ち  
ました。大学を卒業した年の支部総会  
から参加し、何度か失礼をし、欠席し  
たこともありましたが、様々な場面  
で、先輩の方々から多くのものを学  
び、今日の自分があるのではと振り返  
り、感謝しています。

同窓って何だろうと、ふと考え始め  
たとき、理科大の入学試験の当日、朝  
寝坊をしてしまい、1 時間目の数学の  
試験に、10 分程遅刻したことを思い出  
しました。ラッシュアワーと焦りの中、  
電車を乗り継ぎ飯田橋によく到着  
し、小走りで神楽坂キャンパスに向か  
いました。そして、エレベータに乗る  
ところから、試験会場の部屋の前まで  
付き添い、励ましてくれた、あのとき  
の女性スタッフ(理大生の補助員と思  
うが;)に、「同窓」という原点はあ  
るような気がしてきました。初対面の

見ず知らずの人であっても同窓とい  
う絆はありがたいもので、直ぐに打ち解  
け心が和む、そういうものではないで  
しょうか。

少し話しは変わりますが、少子高齡  
化時代において、若い世代が社会資本  
に頼るあまり、親が子の面倒を見、子  
が親の面倒を見るという意識が薄れて  
きたように思えてなりません。介護の  
個人負担が変更され、年金制度も根本  
から揺らぎ、制度の改革や増税までも  
が取りざたされ、弱者虐待なども後を  
絶ちません。正に、少し前の時代に戻  
れと言わんばかりのようです。家族を  
愛し、家族を信頼し、家族に未来を託  
すことは、社会生活の根幹と思います。  
現在の崩れかかった社会の風潮は、実  
に残念な気がいたします。

さて、今年度の支部総会で、副支部  
長という大役を仰せつかり、ますます  
身が引き締まると同時に、これからは  
先輩のための役回りに少々ウエイトを  
置くのかなとも考えています。具体的  
に何ができるか、はつきり見えてはい  
ませんが、諸先輩のノウハウを今よう  
にアレンジし、精一杯頑張りたいと思  
っています。本県とは経済構造が異な  
っていることもあり、産業界の  
同窓がイニシアチブを発揮している支  
部もあります。従いまして、新潟支部  
はこれから財政基盤を強化するために  
も、情報伝達及び各種事業実施の基盤

を拡充・整備していかなければならな  
いと考えています。同窓には業種はも  
ちろんのこと、社長もへったくれもあ  
りません。あるのは先輩と後輩だけで、  
それなりの役目をそれなりに果たすだ  
けです。しかしながら、同窓は家族と  
しての一面を持っています。暖かさや  
厳しさを期待できます。己の母校が誇  
れるかどうかは、現役学生の「質」で  
はなく、同窓の「勢い」そのものと考  
えています。学問的、社会的、経済的  
な要因もありましようが、固い絆で結  
ばれた同窓こそ「勢い」ではないでし  
ょうか。

### 御挨拶

副支部長  
森 久



副支部長  
と仰せつかり  
ました森で  
す。よろし

くお願い致します。  
理科大を卒業して、高校の教員になっ  
て三十余年が経ちます。新発田地区の  
学校が新採用で、その後転勤七回、八  
校目の学校である県立見附高等学校の  
校長をこの四月に拝命し、赴任いたし  
ました。なお、新任校には同窓生が一

人もいません。確か過去七校の勤務校  
で同窓生がいない学校はなかったと記  
憶しています。大きい学校に勤務した  
ときは五人の同窓生がいたこともあり  
ました。

私は単身赴任の経験が長く、今年が  
単身赴任生活十六年目になります。私  
には二人の息子がいますが、最初に単  
身赴任したのが次男が二歳の時でした。  
毎日夜になると電話でその日の出来事  
を報告しあいました。息子達は、父親  
は外で働き休みのときだけ家に帰って  
くるものだ、小学校の中学年ごろま  
で思っていたようです。今になって思  
うと、息子達にはすまない事をしたと  
痛感しています。

ところで、同窓会に出席したいと思  
うのは、第一に、母校の先輩から後輩  
へと受け継いできた伝統や誇りを、在  
校生達がどのように発展させようとし  
ているか、進学や就職の状況はどうか  
などの母校の現状に対する社会的評価  
は、どんな具合なのか、知りたいこと。  
第二は、年に一度くらい、先輩、同級生、  
後輩が集まる喜びの中で、しばし、現  
在の境遇を忘れて、それぞれの学生時  
代の尽きせぬ思い出を語り合い、旧交  
を温め、同窓生ならではの助け合い、  
励まし合いができること。これら二つ  
の中に、ことばでは言い表せぬ喜びと  
楽しみがあるからだと思います。  
一般に、人は、だんだん年をとり、

それとともに社会的責任が大きくなる  
と、家庭での休息が一番だと考えて、  
出無精になりがちですが、同窓会に  
一度でも出席すると、「出席して本当に  
良かった」と必ず思うものだと思います。  
同窓生の皆さん、機会を捕らえて是  
非同窓生の集まりに出席してみてください  
さい。

### 母校七年日雑感

H1 理工・数  
石塚 正宏

新採用以来お世話になっていた南魚  
沼での十年間に続き、母校である新潟  
南高校に勤務してから七年が過ぎよう  
としています。

赴任して二年目、生徒から突然「天  
文同好会を作りたいので、顧問になっ  
てほしい」と言われ、周りの様子もわ  
からぬまま、引き受けたのが懐かしく  
思い出されます。生徒達は、部員の募  
集や同好会設立のための署名集め、活  
動場所の確保、生徒総会での提案など、  
驚くほどスムーズに準備を進め、翌年  
の四月には活動を始められるようにな  
りました。周囲の生徒や先生方の協力  
があったからこそ感謝していますが、そ  
れにしても実行力のある生徒と巡り会  
えたのはとても嬉しいことでした。

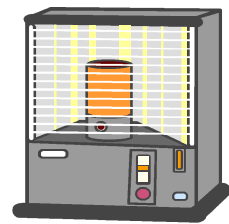
実は私も高校三年間、地学部所属

し、気の合う仲間達に出会い、昼休  
みや放課後には天文などの話で盛り上  
った思い出があります。中でも、学校  
の屋上に泊まりこんで一晩中星空の観  
測をする「観望会」は一番の楽しみで  
した。文化祭でのプラネタリウム上演  
などを通して先生や先輩から教わった  
天文の知識は二十年近くたっても、か  
なり記憶に残っており本当に感謝して  
おります。そんな南高地学部も、最近  
では部員が集まらなくなって廃部にな  
ったということを聞き、残念に思っ  
ていた矢先の同好会設立でした。

さて、その天文同好会は設立三年目  
には天文部へと昇格し、生徒会からの  
援助も多くなりました。設立四年目には  
新潟南高校が、スーパーサイエンス  
ハイスクールの指定を受け、文部科学  
省からの支援が始まりました。大きい  
望遠鏡や撮影装置、太陽観測のための  
機器など新しい機材をどんどん増やし、  
充実していく天文部を、顧問ははずれ  
はしましたが、今も熱い思いで応援し  
ています。

そんな今日この頃、天文同好会創設  
時の生徒たちが開くOB合宿に招かれ  
る機会がありました。五年前の初合宿  
で見たのと同じ天の川を見上げながら  
楽しそうに話を花を咲かせる彼らを見  
て、何だかうらやましい気持ちになり  
ました。高校時代に一つの目標に向か  
って皆で頑張ることは、やはりかけが

えの無いことのようにです。私の教職も  
折り返し地点間近となり、体の動きも  
鈍くなってきた昨今、もうちょつと頑  
張らねばと元気をもらった気持ちがあ  
りました。



### 薪ストーブは

### 心も暖かい

S52 理・応数  
小岩 弘明

我が家を8年前に新築した時、ラン  
ニングコストが0という現実的な理由  
と生の火を見れば心も温まるのではな  
いかというメルヘンチックな理由とで  
我が家で唯一の暖房器具として薪ストー  
ブを入れた。薪ストーブ一つで全家  
体を11月下旬から4月上旬まで暖め  
るためにはどの位の薪が必要なのかを  
考えずに・・・。

最初の2、3シーズンは薪ストーブ  
の扱い方、薪の燃やし加減をつかむま  
でに苦労したが今では思い通りに火力  
が調節できるようになった。

最大の問題は薪の調達である。最初  
の1シーズンで当初想定していた薪の

量よりはあるかに多くの薪が必要である  
ことが分かった。新築と同時に建てた  
薪小屋では収まらず、家の周りをぐる  
りと薪が取り囲むくらい必要なのであ  
った。何人かの建築業者さん、解体業  
者さんから分けていただき、数年経つ  
と近所の方からも庭木を伐採したもの  
をいただくようになりどうやら今まで  
暖かい冬を過ごせたが、ひと冬越すに  
充分な量が確保されるまで気がかりだ。  
でもいただいた材木や廃材をチェー  
ンソーで切り、斧で割る作業は楽しい。  
斧を持ち、丸太をじつと見つめ、どこ  
を攻めれば割れるか、そして実際にス  
パツと割れた時は気持ちもスカツとし、  
ストレス発散に大いに役に立っている。  
そして何より、薪ストーブは暖かい  
炎を見るのも、薪が爆ぜる音を聞くの  
も楽しい。

幼い頃のたき火を思い出し、心の安ら  
ぎを感じる。鍋物や焼き芋が手軽にで  
きるのもうれしいし、洗濯物がすつき  
り乾くのも気持ちが良いものである。  
夏の暑い盛りに冬の暖かさを思いな  
がら薪割りに汗を流すのはある意味ぜ  
いたくなのだろう。これからもゆっく  
り、のんびり薪割りを楽しみ、暖かい  
冬を過ごしていきたい。



# 「ホワイト餃子」

S 58 理工・機  
小池 弘

理工学部卒業の方であれば、ご存じであると思います。このホワイト餃子が通信販売で購入出来ることを昨年知り、時々食べるようになりました。

学生当時は、おいしいから行くのではなく、安いから行ったのだと記憶している。普通の餃子とは、見た目も味もかなり違います。特徴は、焼き餃子というより揚げ餃子に近い感じすることと、皮が厚く皮の中が、もちもちしているし皮の外はカリカリであることです。また香りが独特であることと、焼くのに時間がかかることです。それから、一口かぶりつくと、熱い肉汁が出てきて口の中が火傷しそうになります。通販で購入するようになってから結構おいしく感じてます。理窓の同僚たちとときどき餃子パーティーをしています。

実は、昨年中越大地震の数日後に届くように注文していたのですが、住所が長岡市だったので、店のおばさんがストップしてくれました。後に電話をしたら心配をしてくれて、お見舞いとして餃子を送っていただきました。みなさんも是非、食べてみてはいかがでしょうか。ホームページがあるのでその野田本店の電話で通販できます。100個単位の注文で着払いです。

焼き方もカラー刷りの説明書が同封されているので心配いりません。懐かしい味に感動してみませんか。



## 初めての単身赴任

55 理工・数  
上杉 肇

この春から、高田北城高等学校に転任となり、同時に、結婚してから初めての単身赴任となりました。

最初の数ヶ月は目新しいことばかりで、時間が自由に使えるということに喜びを感じていました。しかし、朝晩の食事作り、片付け、洗濯など家事をこなすことにはいづいぶんと時間をとられることと、夜、一人でアパートにいるということの空虚な感じにだんだんとさいなまれてきました。そうなるにつくと家で仕事をやる気力もなくなり、学校から帰ると簡単な食事を用意して飲んで寝てしまうだけという生活が定着しました。自分は一人暮らしに向かないんだと認識させられました。家族と過ごす大事さを思い知らされました。毎日、電話し、子供の声を聞くことで何とか精神の安定を保っているような有様です。後、何年単身赴任が続

くのか分かりませんが、もう少し張りのある生活を送らないといけないと思いました。

アパートでのいい加減な生活を除けば高田の暮らしは素晴らしいものです。北城高校はお堀端にあり、四季の移り変わりを楽しむことが出来ます。春の桜、夏の蓮、いずれも見事なもので、大勢の人でにぎわいます。学校も素直で元気な生徒とやる気のある先生が多く、とても充実したやり甲斐のある職場です。もちろん、同窓の先生に分らないことをお聞きできるので大変助かっています。大きな問題が山積みですが、一歩でも前に進めるように頑張ります。

## 赤泊雑感

50 理・化  
竹内 文亮

一、恵まれた自然

四月一日の赴任した日の夜でした。初日から近隣のお祭りに招待され、家に帰る途中で空を見上げると満天の星でした。空の透明感があまりにすごいことに驚き、思わず十分以上見とれていました。こんなにくっきりとした星空を見たのは、高い山に登ったとき以来でした。あたかもプラネタリウムを

見ているように、瞬くこともせず、はつきりと点状に見えるのです。また、夏には、分校の教務室の中に毎日違った種類のアゲハ蝶が入ってきました。小学生の頃、捕虫網を持って追いかけた経験がありますが、毎日のように部屋の中に飛び込んでくる様子には感激しました。外に行かなくても標本が作れるのではないかと思うくらいです。ここでも豊かな自然に恵まれていることを改めて知りました。

冬の海の厳しさも初めての体験でした。島が動くのではないかと思われるほどの潮鳴りで目が覚めたことがあります。赤泊ではありませんが、真野近くの岩場から道路に向かってふわふわとした泡のように飛び交う波の花も見たのも初めてです。

生徒も純朴です。放課後になると、釣り竿を持って海に向かう生徒の姿を見ていると、何か忘れていたものを感じ出すような気持ちになりました。もちろん、部活をしたり、ヘッドホンをして音楽を聴いたり、バイクに夢中になる生徒もいます。赤泊分校の生徒が演じる郷土芸能の練習のあとで、すばやく切り替わってバンド演奏に熱中する生徒もいます。この点は現代の高校生であることを感じます。自然と人間、ノスタルジーとモダン、なにかハイブリッドですばらしい故郷であることを感じました。

## 二. 佐渡の芸能

佐渡に来て、驚いたのは自然だけでなく、地区ごとのお祭りの多さです。お祭りの目になると早朝から太鼓の音が静かな山あいには響きます。太鼓の音に混じって笛の音が聞こえることもあります。

佐渡全体で獅子舞や鬼太鼓や神社での巫女の舞など様々な芸能が伝わっています。地区ごとにより異なり、それが正しく伝承されているのです。

また、佐渡には「佐渡おけさ」、「相川音頭」、「両津甚句」という有名な三大民謡があり、いくつかの地区では子



(韓国仁川でおけさを踊る赤泊分校の生徒)

供民謡会のような形で伝えられています。

赤泊分校でも「郷土芸能クラブ」というものがあり、平成六年から十二年連続で新潟県代表として高文連の全国大会郷土芸能部門に参加しています。もともとは高文連の新潟大会に合わせて作られたクラブでありました。南佐渡の複数の地区の鬼太鼓を演じていたのですが、何年か経つうちにそれらが融合して全くオリジナルなものになりました。そのリズムや踊りはいわゆる「ノリ」の良いもので、現在では佐渡島内でも人気が高く、老人ホームや公民館で演じると元気がもたらえると好評です。そのため生徒は四月から十一月までは大忙しとなっています。

## 三. 人と人

先日の大寒波で佐渡も大雪となりました。赤泊でも積雪が三十センチ近くなり、山のほうに入ると四十センチ以上となりました。そんな雪の早朝、両津発の便の船に乗るために赤泊を午前三時頃に車で出発したのです。小佐渡を横断する山道があり、山を三つ越える道があります。早朝で除雪もままならないうちでした。急カーブが連続する上り坂に木の枝が落ちていて、それを避けるために急ハンドルをきったところ脱輪して路肩の排水路に車輪を

落としてしまいました。真つ暗な山道で呆然としていました。三十分くらい待つたでしょうか。一台の軽自動車が行きかかりました。事情を話すと赤泊まで行って人を連れてくるということになりました。そして、二十分後に五人がやってきて車を引き上げてくれました。午前四時前なのに、凍えるような吹雪の中なのに、よくも短時間でこれだけの人が集まってくれたものだと感激しました。



赤泊の港に「人こそよけれ赤泊」という石碑が建っていますが、まさに赤泊には今私たちが忘れ去ろうとしている何かがあります。佐渡に赴任しているいろいろなことを九月という短期間で学んだような気がします。まだまだ色々なことに出会いそうで、とても楽しみです。

## ◇事務局からの連絡◇

## ①会報「新潟理窓」について

事務局が変わり、発行が大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。

## ②支部会費について

年会費は1000円です。同封の振込用紙にてお願いします。

事務局の変更により、名義が「上杉肇」となりました。「金融機関等による顧客等の本人確認等に関する法律」により、団体の名称を使用場合は規約の改正をしなければ不可能になったためです。ご了承願います。

## ③名簿について

支部会費納入確認後、該当者に送付いたします。

・同窓の情報をお寄せください。

## ④事務局連絡先

新潟市新金沢町29-14 上杉 肇  
電話&fax 0250220312